



海外から輸入している魚には、どんな種類があるの

エビやマグロなどが多い

1997年の日本の主要水産物の輸入額(魚介類)は、1兆8358億円でした。輸入量の多い順をあげると、エビ(28万1800トン)、マグロ(24万8600トン)、サケ(20万8800トン)、サバ(15万2400トン)、タラの冷凍すり身(15万1300トン)、カニ(12万4000トン)の順でした。そのほかに、イカ、タコ、ヒラメ・カレイ類、アサリ、ニシン、メヌケ類、ウナギ(加工品)などを輸入しています。これを支払ったお金の多い順に並べると、エビ(3930億円)、マグロ(1760億円)、サケ・マス(1189億円)、ウナギの加工品(1152億円)、カニ(1089億円)の順でした。

世界一の魚介類の輸入国日本

1995年の世界の水産物の輸入額は、日本が群をぬいて多く、178億5300万ドルに達しています。これは、世界の総輸入額(560億2500万ドル)の31パーセントをしめています。第2位がアメリカで71億4100万ドル(13パーセント)、第3位がフランスで32億2100万ドル(6パーセント)の順でした。(監修・保岡 孝之)

